

平成 22 年度

病害虫発生予報第 7 号

平成 23 年 3 月 17 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	5
4. 予察項目の見方	8
5. 今月のトピックス（水稻種子の温湯消毒について）	9
6. 気象のデータ	10
7. おしらせ	12

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、イネミズゾウムシの発生量は**平年並**と予想されます。

コムギでは、赤かび病の発生量は**平年並**と予想されます。開花始めから開花盛期に予防散布してください。

2) 果樹

カンキツでは、かいよう病（中晩柑）の発生量は**やや多**と予想されますので、伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して圃場外で処分し、天候に注意して適切に薬剤防除をしてください。ミカンハダニの発生量は**やや多**と予想されますが、圃場によってばらつきがあるので、特に発生が多い圃場では今後の増加に注意してください。かいよう病（温州みかん）の発生量は**平年並**、そうか病の発生量は**やや少**と予想されます。

ナシでは、黒星病の発生量は**平年並**と予想されますが、昨年発生が多かった圃場では、観察を怠らないようにして下さい。赤星病の発生量は**平年並**と予想されます。

3) 茶

チャでは、カンザワハダニの発生量は**やや少**、チャノホソガの発生時期は**遅**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、ハダニ類の発生量は**やや多**と予想されますので、早期発見に努め、寄生密度が低いうちに防除を行ってください。灰色かび病の発生量は**平年並**、うどんこ病は**少**と予想されます。

キャベツでは、菌核病の発生は**平年並**と予想されます。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						3月		4月		
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	イネミズゾウムシ	—	平年並	小	普通				成虫誘殺数	<ul style="list-style-type: none"> 1) 近年、発生が少ないので、田植え後の発生状況に応じて防除してください。 2) 常発圃場では、箱施用剤による予防防除を行ってください。
コムギ	赤かび病	—	平年並	小	普通		出穂期	開花期	感染 発病	<ul style="list-style-type: none"> 1) 本年は生育が遅れており、開花時期もやや遅い見込みです。 2) 圃場ごとに出穂および開花状況を把握し、開花始めから開花盛期に予防散布してください。 3) 防除所ホームページの「コムギ赤かび病・防除情報」において出穂期および防除適期の予測（随時更新）を公開しています。
カンキツ	そうか病	—	やや少	小	普通	葉枝の発病		発芽		<ul style="list-style-type: none"> 1) 発病はやや落ち着いてきましたが、果実発病がみられた圃場では、発芽期防除を必ず実施してください。 2) 春葉が感染する期間は発芽直後から伸長停止期までです。 3) 越冬病斑の見られる枝葉は剪除して、圃場より持ち出して処分してください。
	かいよう病	—	温州 平年並	温州 小	温州 低				発病密度	<ul style="list-style-type: none"> 1) 病害虫防除技術情報第16号（3月11日発表）。 2) 風当たりの強い中晩柑園では、越冬病斑の多い圃場があります。発芽前防除を必ず実施してください。 3) 発病枝葉はなるべく剪除し、圃場より持ち出してください。 4) ボルドー液とマシン油乳剤の近接散布に注意してください。
	ミカンハダニ	—	やや多	中	普通				成ダニ密度	<ul style="list-style-type: none"> 1) 成虫が1葉当たり1頭前後になったら防除してください。 2) マシン油乳剤を散布していない圃場では、今後の増加に注意してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						3月	4月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ナシ	黒星病	—	平年並	小	普通					1) りん片に発病を確認したら、基部から切除して圃場外で処分してください。 2) りん片や新梢基部に発病が確認されたら、すぐに防除を実施してください。 3) 例年発生が多い圃場では、早くから樹体の観察を怠らないようにしてください。
	赤星病	—	平年並	小	普通					1) 赤星病の防除時期は、黒星病の防除適期と重なります。 2) 特に開花期前後の防除が重要なので、各薬剤の特性を理解して両方に登録のある薬剤を使用してください。
チャ	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通					1) 4月上旬頃までは茶樹の南側や東側の裾部に多く発生する傾向があります。
	チャノホソガ	遅	—	—	—					1) 成虫飛来があっても新芽がないと産卵しません。新芽の生育状況を考慮して防除要否を判断してください。 2) 新葉の葉裏に産卵または孵化幼虫を認めたら防除してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						3月	4月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イチゴ	灰色かび病	—	平年並	小	普通	発病密度				<ol style="list-style-type: none"> 20℃前後で多湿の時に発生しやすいので、施設の換気に努めてください。 老化・枯死した下葉は、病原菌が寄生・増殖して伝染源になるので除去し、発病果も速やかに除去します。胞子が飛散しないよう袋に密封するか土中に埋めてください。 降雨が続く場合はくん煙剤を使うと、防除による湿度の上昇を防げます。 株全体に発生するので、薬剤散布をするときは発病部位だけでなく株全体に薬液がかかるよう丁寧に散布してください。
	うどんこ病	—	少	小	低	発病密度				<ol style="list-style-type: none"> 発病を認めたときは、集中的に薬剤散布し、十分に防除してください。治まった後も再発しないか注意をはらってください。 発病果は伝染源となるので、見つけ次第除去してください。
	ハダニ類	—	やや多	中	普通	ダニ密度				<ol style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、寄生密度が低いうちに防除を行ってください。密度が上昇したあとの防除では効果が劣ります。 薬剤がかかりやすくなるよう、不要な下葉を除去して丁寧に散布してください。 薬剤散布にあたっては、ミツバチや天敵に対する影響に十分注意してください。 ハダニ類は抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。
キャベツ	菌核病	—	平年並	小	普通	発病密度				<ol style="list-style-type: none"> 結球期ごろから目立ち始め、葉の傷口や生育の衰えた下葉から感染します。 薬剤は初発部位である株元に十分かかるように散布してください。 菌核は土中で5年以上生き残ることがあるので、発病株は菌核をつくらぬうちに処分してください。

3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場（昨年8月）では、発生圃場率 19.4%（平年 11.2%）と多、払い落とし虫数 0.5 頭（平年 1.3 頭）と少（±）</p> <p>考察： 昨年の巡回調査結果から、越冬成虫量の予想発生量は平年並と考えます。</p>
コムギ	赤かび病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 3か月予報（2月24日発表）によると、4月は平年に比べて晴れの日が多く、降水量は多くない予想（-）</p> <p>2) ムギ生育予測システム（11月16日播種・農林61号、3月15日現在）によると、予想出穂期は4月18日頃と、平年に比べて3日程度遅い見込み（+）</p> <p>3) 一般圃場では、平年に比べて生育がやや遅れ、茎数は多い状況（+）</p> <p>考察： 今後の気象条件と、一般圃場での生育状況を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（3月11日発表）によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は多くなく、3～4週目（3月26～4月8日）の気温は高くない予想（-）</p> <p>2) 昨年7月下旬の県予察圃（無防除圃場）では、春葉の発病率は 48.5%（平年 53.7%）とやや少（-）</p> <p>3) 巡回調査圃場（3月第1週）では、昨年春葉における発病は確認できず（平年発病度 0.2）（±）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少（-）</p> <p>考察： 現状の発生量はやや少と思われ、大きく増加する時期ではないことから、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（3月11日発表）によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は多くなく、3～4週目（3月26～4月8日）の気温は高くない予想（-）</p> <p>2) 県予察圃（無防除圃場、中晩柑、2月11日調査）では、越冬病斑の発病葉率は 29.4%（平年 30.9%）とやや少の傾向、発病度 5.4（平年 6.9）と少の傾向（-）</p> <p>3) 巡回調査圃場（3月第1週）では、病斑は温州みかん7地点全てで未確認(±)と平年並の傾向、中晩柑類6地点中5地点で発病確認し、発病葉率 23.0%（4年平均 8.4%）、発病度 5.7（4年平均 2.2）(+)とやや多の傾向（+）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は概して温州みかんで平年並に少、中晩柑類で平年並（±）</p> <p>考察： 昨年の一般圃場の発生状況、今回の巡回調査結果を考慮して、予想発生量は温州みかんでは平年並、中晩柑類ではやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	—	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 1か月予報（3月11日発表）によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は多くなく(+)、3～4週目（3月26～4月8日）の気温は高くない(-)予想（±） 2 県予察圃（3月9日）では、寄生虫数は慣行防除圃場で0頭/葉（平年14.9頭/葉、ただし過去10年中6年は0頭/葉）と平年並、無防除圃場で6.7頭/葉（平年26.3頭/葉）と少（-） 3 巡回調査圃場（3月第1週）では、寄生葉率は11.1%（平年4.0%）、寄生虫数は0.31頭（平年0.17頭）と多（+） 4 一般圃場では、発生量は平年並（±） <p>考察： 現状の発生量は圃場によるばらつきがありますが、今後の増加を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
ナシ	黒星病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 1か月予報（3月11日発表）によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は多くなく、3～4週目（3月26～4月8日）の気温は高くない予想（-） 2 昨年8月の巡回調査圃場では、発病葉率は0.4%（9年平均1.2%）と少の傾向（-） 3 一般圃場では、昨年秋の発生量はやや少～平年並（概して平年並）（±） <p>考察： 昨年の一般圃場の発生状況を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	赤星病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 1か月予報（3月11日発表）によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は多くない予想（-） 2 昨年の一般圃場では、発生量は平年並に少（±） <p>考察： 昨年の一般圃場の発生状況を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
チャ	カンザワハダニ	—	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 1か月予報（3月11日発表）によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は多くなく(+)、3～4週目（3月26～4月8日）の気温は高くない(-)予想（±） 2 県予察圃（3月上旬）では、寄生葉率は0%（平年1.9%）と少、寄生頭数は3.0頭/葉（平年6.5頭/葉）と少（-） 3 巡回調査圃場（3月第1週）では、寄生葉率は0%（平年1.9%）、寄生頭数は0頭/葉（平年0.6頭/葉）と少（-） 4 一般圃場では、発生量は概して少（-） <p>考察： 現状は概して少ですが、降水要因を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノホソガ	遅	－	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月11日発表)によると、3～4週目(3月26～4月8日)の気温は高くない予想(発生時期+)</p> <p>2) 一番茶の萌芽期および伸育は低温による生育の停滞により平年よりやや遅い予想(発生時期+)</p> <p>3) フェロモントラップでは、成虫初飛来は未確認(平年3月第4半旬)</p> <p>考察: 気象要因を考慮して、予想発生時期は遅と考えます。</p>
イチゴ	灰色かび病	－	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月11日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は多くない予想(－)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第1～2週)では、発病株率は3.2%(平年0.9%)と多、発病果率は0.7%(平年0.5%)と多(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～やや少(概してやや少)であるが、一部圃場で増加の傾向(－)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と思われますが、一般圃場での発生動向及び巡回結果から、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	うどんこ病	－	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月11日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く(+)、3～4週目(3月26～4月8日)の気温は高くない(－)予想(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第1～2週)では、発病株率は0%(7年平均0.4%)と少の傾向、発病果率は0%(平年0.1%)と平年並に少(－)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～やや少(概して少)(－)</p> <p>考察: 現状の発生量は少と思われ、増加の要因はないので、予想発生量は少と考えます。</p>
	ハダニ類	－	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月11日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は多くなく(+)、3～4週目(3月26～4月8日)の気温は高くない(－)予想(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第1～2週)では、寄生株率は11.3%(7年平均14.0%)と平年並の傾向、発生程度は4.8(6年平均8.8)とやや少の傾向(－)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並～多(概してやや多)(+)</p> <p>考察: 一般圃場の発生を重視し、予想発生量はやや多と考えます。</p>
キャベツ	菌核病	－	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(3月11日発表)によると、平年に比べ晴れの日が多く、降水量は多くなく、3～4週目(3月26～4月8日)の気温は高くない予想(－)</p> <p>2) 巡回調査圃場(3月第1週)では、発病株率は0%(平年0.6%)と平年並に少(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少(±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少と思われ、大きな増加の要因がないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

		平年値 ↓				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少くなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていればいいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス「水稻種子の温湯消毒について」

◆温湯消毒法による水稻種子伝染性病害虫の防除◆

温湯消毒法は、専用装置（写真）での加熱処理によって、水稻種子伝染性病害虫を防除する方法で、化学合成農薬使用量を低減できる利点があります。三重県内では、現在水稻作付面積のおよそ35%で実施されており、JAや担い手農家の大規模水稻育苗施設を中心に導入が進んでいます。

防除効果のある病害虫

ばか苗病、いもち病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、イネシンガレセンチュウ



(写真) 温湯消毒装置の例 (農業研究所 黒田克利氏 原図)

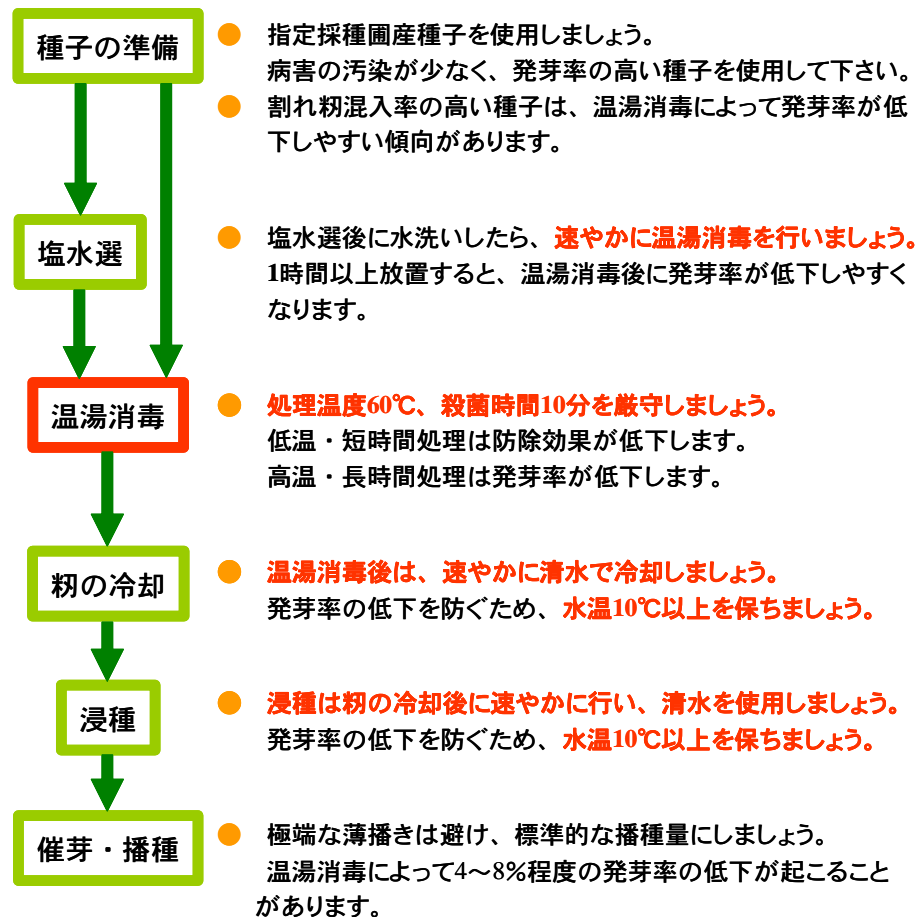
◆温湯消毒法による種子消毒作業の注意点◆

(1) 温湯消毒法は手順や注意点を誤ると、防除効果が低下したり、種子の発芽不良が起こったりします。

(2) 特に平成22年産種子は、昨年夏の記録的な猛暑の影響で、平年に比べて割れ糲の発生量が多く、慎重な作業が必要です。

(3) 右欄の注意点を参考に、健全な苗の育成に努めましょう。

温湯消毒法による種子消毒作業の注意点



6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 23 年 3 月 11 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう 1 か月は、天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べに晴れの日が多い見込みです。期間を通して気温の変動が大きいでしょう。特に 2 週目は暖かい空気に覆われやすく気温がかなり高くなる可能性があります。

1 週目 3 月 12 日～ 18 日	期間のはじめと終わりは高気圧に覆われて概ね晴れますが、期間の中頃は気圧の谷や寒気の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日があるでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 2.0 日・4.5 日
2 週目 3 月 19 日～ 25 日	天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。暖かい空気に覆われやすく、気温が高くなるでしょう。	同 2.3 日・4.2 日
3～4 週目 3 月 26 日～4 月 8 日	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。寒気の影響を受ける時期がある見込みです。	同 4.9 日・8.1 日

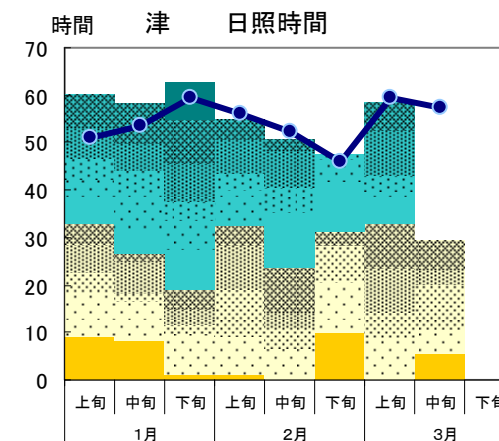
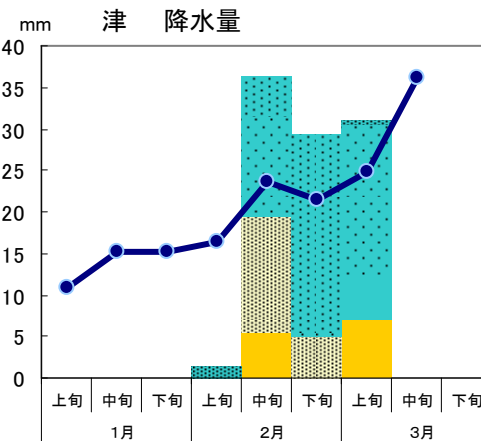
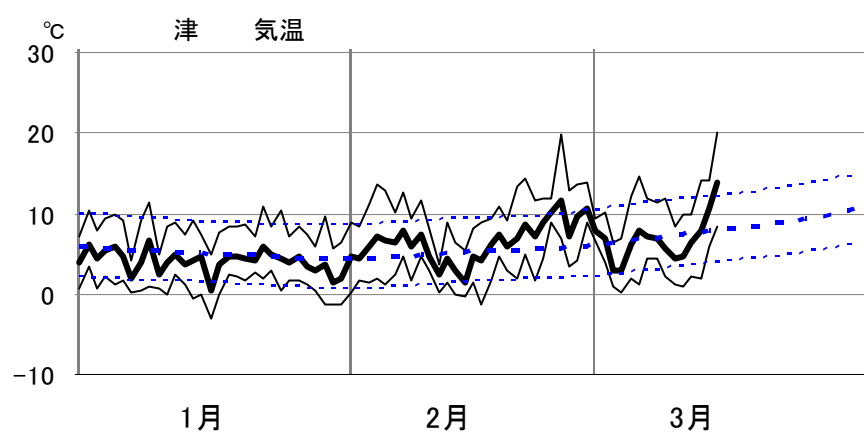
東海地方週間天気予報 (平成 23 年 3 月 16 日 11 時 名古屋地方気象台発表)

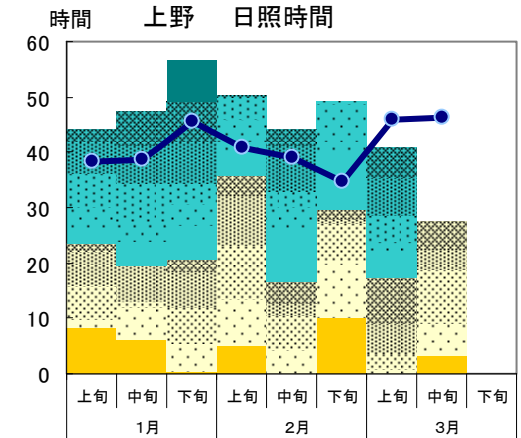
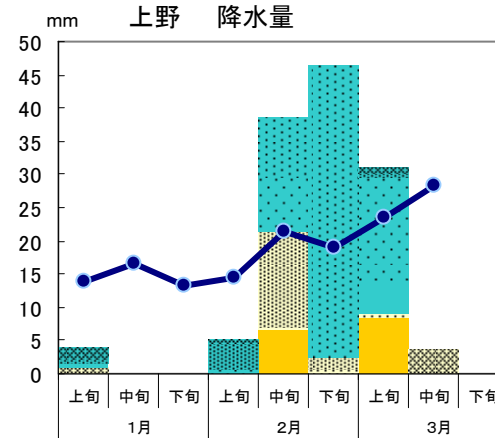
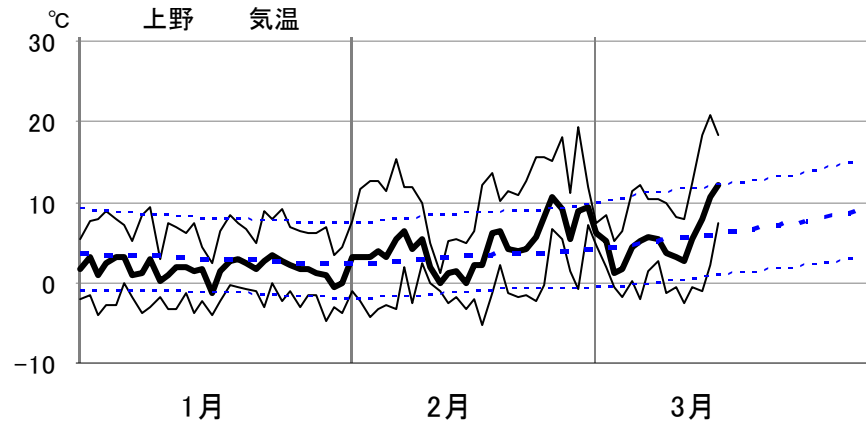
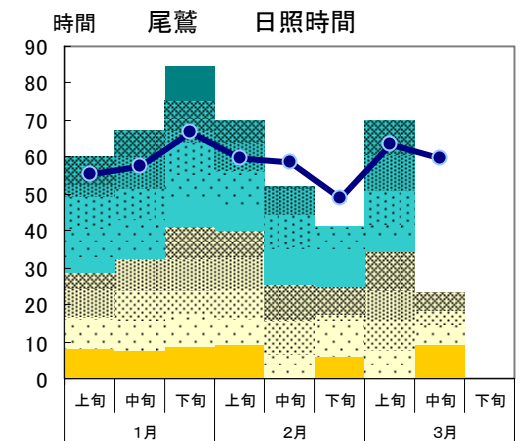
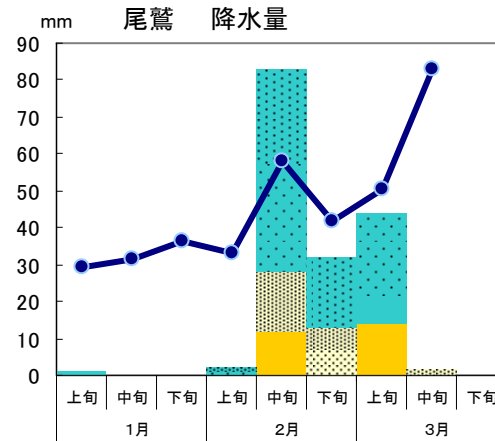
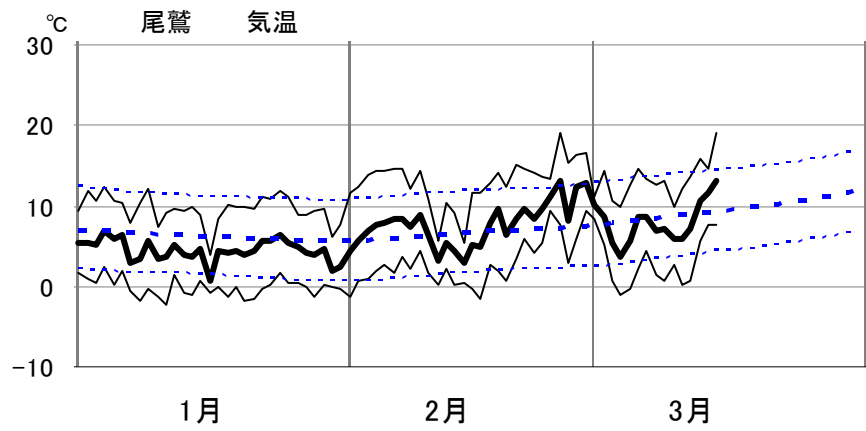
予報期間 3 月 17 日～23 日

向こう一週間は、期間のはじめは高気圧に覆われて晴れますが、その後は気圧の谷や寒気の影響で雲が広がりやすく、期間の終わりには雨の降る日があるでしょう。

最高気温と最低気温はともに、期間のはじめと終わりは平年より低く、かなり低い日もあるでしょう。期間の中頃は平年並か平年より高い見込みです。降水量は平年並の見込みです。

気象の日別推移 (気象庁発表データ__ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (3 月 15 日まで)





凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- - - 年平均
- - - 全年最高
- - - 全年最低

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平均値

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平均値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

本年度から、平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は今回を持って終了です。

第1回 4月22日(済み) 第2回 5月27日(済み)
第3回 6月24日(済み) 第4回 7月22日(済み)
第5回 8月26日(済み) 第6回 10月21日(済み)
第7回 3月17日(今回)

3) 利用方法 **NEW**

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。(アドレスが新しくなりました)

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書 **NEW**

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。(アドレスが新しくなりました)

http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h22yohotebiki_.pdf

5) メール配信サービス **NEW**

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。(アドレスが新しくなりました)

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm